

澤井余志郎さんを偲ぶ「一周忌」の集い

一昨日 17 日午後、表題の集いが四日市市塩浜の「三重北勢健康増進センター」1 階研修室で行われた。ここは 20 年ほど前まで、公害患者らが通院・入院した塩浜病院があったところだ。近くに 1 枚目の写真にある四日市市立塩浜小学校がある。この塩浜小学校は 9 年前、澤井さんに案内してもらったことがある。澤井さんらしい説明であり、いまでもよく覚えている。ここから真っすぐ行くと磯津のまちに出る。



この集いを知ったのは、一昨日の早朝であった。日本環境会議のメールからだ。澤井さんには日本環境会議名古屋大会、そして四日市公害判決「35 周年記念の集い」などでお世話になった。「偲ぶ会」に参加できなかったので、予定を変更して急遽出かけることにした。「一周忌」の集いに参加して、本当に良かった。澤井さんを心から偲ぶとともに、あらためて澤井さんのお人柄、活動の広さを知ることができ、元気をもらえたからだ。



集いは四日市再生「公害市民塾」の伊藤三男さん作成の澤井さんの「語り部」などの映像、原告の一人で元漁師の野田之一さんの心温まる話、そして参加者から澤井さんの思い出が語られた。野田さんの話は、次のレポートで紹介したい。私も突然に指名され、澤井さんの思いを緊張気味に話した。澤井さんの存在感、「記憶を記録する」ことの大切さを学んだことなどを話した。



3 枚目の写真は、野田さんが澤井さんのご長女の前に進んでいき、これまでの感謝の言葉を述べられたところ。ここでも目頭があつくなった。ご長女の話から澤井さんの家庭での様子、亡き奥さまのことなどを知ることができた。

4 枚目の写真は、会場に飾られていた澤井さんの「第五回田尻賞表彰式」のときだ。表彰状に 1996 年 7 月 7 日の日付が。この写真は初めて見たが、前にレポートで紹介した田尻宗昭さんが澤井の思い出を綴った論文を思い出した。私の発言でもすこし紹介した。田尻さんは澤井さんをこう語る。



「表に出る事を嫌う。まして華やかなスポットライトを浴びることは大嫌いである。そして、くる日もくる日も常人ならばすっかりいや気がさすような、汚れ仕事や雑務、そして連絡役の積み重ねを、彼は何事もないような顔をして、静かにしかも正確、着実に片付けて行く。」

(2016 年 12 月 19 日)